

平成 17 年度 第 4 回市民活動サポートセンター運営委員会 会議録

平成 18 年 1 月 19 日（木）18:30～20:30

横須賀市立市民活動サポートセンター

出席委員 10 名……柴崎、多田、伊藤、井上、小野、佐藤、鷹野、増田、増淵、有森
事務局 4 名……YMC A よこすかコミュニティサポート 高村、佐久間
市民生活課 小座野、堀井

1 報告事項

次第に沿って報告を行った。

2 審議事項

- (1) 市民公益活動団体について、提案どおり承認した。
- (2) 運営委員の氏名掲示について、資料を修正（利用者の位置づけを削除し、運営概念図のみを掲載）のうえ承認した。
- (3) サポートセンターのレイアウトについて、対応マニュアルを作成し説明責任を果たすことで、事務局の提案どおり承認した。

3 その他

- ・○ロッカー、レターケースの募集について ○会報ファイルの整理について
○利用案内の改訂について ○今後の情報化支援について、事務局から報告があった。
- ・サポートセンターのレイアウト変更について増田委員から発言があり、個別事項を継続して検討していくこととなった。

[意見概要]

◆ 利用者の声について

(多田委員)

コピー機のリース期間はいつまでか。

(事務局)

リース契約期間は 5 年間で、あと 2 年ある。平成 19 年 10 月まで。

◆ 市民協働推進フォーラムについて

(有森委員)

シニアの市民活動参加はタイムリーなテーマであり、市としても今後 2、3 年継続していきたい。

(増田委員)

資料はどこで見ることができるのか。サポートセンター内で見るとはできないか。

(事務局)

HP にアップするとともに、センターのラックに配架する。

◆ のたろんフェア 2006 について

(事務局)

今日、開催プログラムが完成した。全部で 52 団体参加している。

プログラム見開きの左上、文化村の一番下にある「青空市民まつり実行委員会」とは、横須賀中央商店街(協)や商工会議所などが TMO (中心市街地活性化)の一環として取り組んでいるものでサポートセンターも協力している。企業ブースがフェアに加わることで、市民活動団体との新しい関わりができ、活動が広がっていけばよいと考えている。

11 日に予定している交流会に委員の方の参加をお願いしたい。

(柴崎委員)

チラシの配布はいつからどのような形で始めるか。

(事務局)

当日プログラムは2月の情報広場と一緒に市内の公共施設や駅などで配布する予定。

(井上委員)

レインボービジョンの編集委員をしているが、おおむね予定通りに進んでいる。

◆ 春の市民活動体験について

(事務局)

昨年から学生の休みにあわせて3月中を春の市民活動体験期間としている。現在、参加団体数は21団体。イベント情報は、夏の市民活動体験で好評だったのでカテゴリー別に分けて編集する。「ちょっとボランティア」、「講演会・講習会」、「体力アップ」、「アウトドア」の4項目になる予定。活動体験受け入れが18行事、ボランティアスタッフ受け入れが6行事ある。活動体験と、ボランティアスタッフ募集を重複する団体がある。

◆ 運営委員氏名の掲示について

(事務局)

前回、増田委員から運営委員氏名の掲示をご提案いただき、運営委員会で検討した結果、サポートセンターという施設が、「横須賀市」と「指定管理者YMCAよこすかコミュニティサポート」と「運営委員会」の三者が連携して運営しているということを利用者に分かりやすく示したうえで、運営委員氏名を掲示するのがよいという議論を踏まえて案を作成した。

(増田委員)

スタッフがすぐに説明できるように受付の横に貼るのがよい。委員の所属団体は一つにした方がよいのではないかと。

(事務局)

これは、運営委員に応募したとき書いていただいた所属団体である。

(柴崎委員)

委員は固定ではないので、「平成17～18年度委員」と加えてほしい。

(有森委員)

利用者が下端にある。利用者の矢印は何を表しているのか。

(事務局)

利用者の意見を反映しているという意味。周りを囲っている枠がセンター全体のイメージである。

(有森委員)

利用者の声が、市、指定管理者、運営委員会へそれぞれ届くという意味ならば、利用者からの矢印をそれぞれくっつけてしまうのはどうか。

(増田委員)

三者をまとめた形にして、利用者を上へもっていく。どちらかという下より上。

(井上委員)

知らない人がこの図を見て自分がこの施設に対してどういう立場なのか感じてもらいたいのであれば、回りを利用者で囲む。または、協働と書いてある部分に利用者を入れるのはどうか。初めて見た人は運営委員でないと利用できないような感じを受けるのではないかと。

(事務局)

利用者が枠からはみ出ているから分かりにくい。利用者の部分を外側の枠の中に入れ込んで、皆で作っているというイメージを出す。運営委員は同時に利用者でもあるので、運営委員会の枠を更に大きい枠で囲んでそこを利用者とする。利用者の中から手を挙げた人が運営委員会を組織していることが分かるし、一体感が出る。

(増田委員)

二重にする。確かに運営委員は利用者の声を代表しているとも言える。

(多田委員)

運営委員はサポートセンターの利用者でないと成れないのか。

(増田委員)

利用していない人に運営について声をあげてもらっても説得力がないのでは。初めて来た人も利用者であることに変わりはないが。

(柴崎委員)

この図はイメージだから、あえて利用者を書かなくてもサポートセンターの運営体制が分かればよいのではないかと。

(鷹野委員)

運営委員は利用者だけでなく、公募の市民も含まれるので、そこを考えると利用者を加えた図は難しいという気がする。

また、「協議」と「協働」は違うのではないかと。協働だと、もう少し運営委員の立場は積極的である必要があるように思う。

(伊藤委員)

三者が協力して一緒になってやっているというイメージで協働という言葉を使っていると考えればよい。

◆ サポートセンターの利用方法について

(有森委員)

委員の方は特に異論がないようだが、どの程度の利用者が汐入駅側の扉を使っているか分からないので、市としては締め切りに対して市民の抵抗があるのではないかと不安がある。いきなり締め切りにするのではなく、受付を増やすなど何らかの対策を講じたうえで対応を考えた方がよいのではないかと。

(伊藤委員)

私自身も汐入駅側の出入り口をよく使っているので不便になると思うが、今回示されたようなきちんとした理由が分かれば抵抗はない。

(小野委員)

印刷機や書籍、パソコンなどの配置を変えることで、目的外利用等はある程度回避できるのではないかと。

(事務局)

受付の位置を変えたり、複数にしたりすることは、構造・運営上難しい。パソコンは配線の問題がある。印刷機などは使う人の立場にたってある程度離れた場所に置くことが良いと思う。サポートセンターは全てスタッフが管理することを考えていない。利用者が自立し、利用者同士で声を掛け合っていくことが基本となっている。

提案では、利用者が必ず受付の前を通るような動線を作る事がよいのではないかと考えた。チラシなど不特定の人に持って行ってほしいものを入口付近にまとめ、作業や打合わせなどを行うスペースと住み分けをすることで、サポートセンターの機能がより分かりやすくなると同時に、盗難や目的外利用などを未然に防ぐことになるのではないかと。

(鷹野委員)

利用票については、個人の欄を作ってほしい。個人で活動をしている人もいるし、逆に団体に所属していれば何をしても良いということではない。サポートセンターは団体に入っていなければ使えない場所ではないと思う。間口を広げる意味でも、活動の内容によっては個人でも使っても良いのではないかと。

(事務局)

レイアウトを変えると利用票も変える必要がでてくる。確かに団体に所属していれば個人でも利用できると思われてしまっていたことがある。団体に入っていることが特権ではないと考えている。

(有森委員)

人ではなく、活動に注目するということである。

(小野委員)

本の貸し出しをしていないことを貼り出してほしい。

(有森委員)

レイアウトを変えることでスタッフの対応がこれまで以上に忙しくなるのではないかな。

(事務局)

変更当初は説明などの対応が必要になると思われるが、センター機能の住み分けができれば、これまでのような利用上の問題への対応などが減少すると思う。

(柴崎委員)

利用方法の変更について災害時にも施設管理者として事前に利用者を把握する必要がある、事務局案に対して異論はないが、敷居が高くないようにしてほしい。今までどおり開かれたサポートセンターの運営をお願いしたい。

(伊藤委員)

公共の場所だから駄目なときは駄目でも良いと思うが、理由をきちんと説明する必要がある。利用方法を変えることで最初は混乱や抵抗があって大変だと思うが、利用者も変更理由が納得できれば、それほど混乱もなく落ち着くのも早いのではないかな。

(多田委員)

運営委員もスタッフをフォローしていく必要がある。

(事務局)

事前告知を早めに出し、理由をきちんと示して、対応マニュアルも作っていききたい。

(増田委員)

運営委員も対応マニュアルがほしい。

◆ レイアウト変更について

(増田委員)

前はコーナーごとの改善案を示し、今回は団体の活動サイクルから考えた。時間をかけてやっていくべきものと考えている。

(鷹野委員)

全部をみていくのは大変なので、小委員会を設けるのはどうか。総論的に改善していくことは賛成だが、各論として具体的に何をどうするかというと難しい。

(井上委員)

原点に戻って本当に困っていることは何なのか議論すべきである。

(小野委員)

継続事項で検討していくのはどうか。

(柴崎委員)

当面は増田委員の意見をもとに検討を継続していきたい。ひとつひとつ案を出して行ってほしい。

以上